

# 日本植物分類学会 ニュースレター

\*\*\*\*\*

No. 44

Feb. 2012

## 今号のトピックス

学会賞・奨励賞・論文賞が決定しました！

第 11 回大会は 3 月 22 日～25 日に大阪学院大学で行われます。

学会監修本『新しい植物分類学 I』がついに刊行(3 月下旬)！

今年の野外研修会は新潟県上越地方妙高山麓に決定！



## 目 次

### 諸報告

2011 年度日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)受賞者の決定 .....	2
2011 年度日本植物分類学会論文賞の決定 .....	3
2011 年度日本植物分類学会講演会の報告 .....	4
日本植物分類学会講演会に参加して .....	4
2011 年度第 1 回評議員会議事抄録 .....	6
2011 年度総会議事抄録 .....	8
2011 年度第 3 回メール評議員会議事抄録 .....	9
庶務報告 .....	9

### お知らせ

日本植物分類学会第 11 回大会公開シンポジウムのご案内 .....	10
評議員会開催のお知らせ .....	10
2012 年度総会のお知らせと審議事項 .....	10
2012 年度野外研修会のお知らせ .....	15
編集委員長交代のお知らせ(予告) .....	15

### 寄稿

学名のラテン語(9) .....	15
書評.....	18
『新しい植物分類学 I』刊行のお知らせ.....	19
会員消息 .....	20



## 諸報告

## 2011 年度日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)受賞者の決定

学会賞選考委員会委員長 高宮 正之

学会賞には 6 名, 奨励賞には 8 名の候補者が推薦されました。学会賞選考委員会において, ご本人あるいは推薦人からいただいた研究概要と業績リストなどの資料等をもとに協議いたしました。その結果, 下記のように学会賞は 2 名の方に, 奨励賞は 3 名の方に授与することに決定いたしました。

## 学会賞

秋山 弘之氏

(兵庫県立大学自然・環境科学研究所 准教授/兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員)

「東アジア・東南アジアに分布する蘚類の分類学的研究」

田中 昭彦氏(元中学校教諭)

「鳥取県の植物の研究」

## 奨励賞

堤 千絵氏(国立科学博物館植物研究部 研究員)

「シノブ科やクモキリソウ属を用いた着生植物の進化に関する研究」

東馬(大井) 哲雄氏(東京大学大学院理学系研究科付属植物園 助教)

「日華植物区系を中心とした植物多様性解析」

中村 剛氏(台湾中央研究院 ポスドク研究員)

「琉球及び台湾の植物地理と分類に関する研究」

(それぞれ 50 音順)

なお, 授賞理由は以下の通りです。

## 学会賞:

秋山弘之氏は, 一貫して東アジア, 東南アジアに分布する蘚苔類の分類学的・植物地理学的研究を行ってこられました。その研究成果は, 数多くの新分布種や新種として記載発表され, 本地域における蘚苔類の生物相解析に大いに寄与されました。各地に隔離的に分布する蘚苔類における進化生物学的研究を進められ, 日本の蘚苔類相研究を進化の実体に迫る段階へと深められました。また, 専門書だけでなく, 一般向けの書籍も出版され, 蘚苔類学の普及に貢献されました。日本植物分類学会では, 評議員, 庶務幹事, 和文誌編集責任者, 英文誌・和文誌編集委員等を歴任され, 会の発展につくされました。これらの功績は, 日本植物分類学会賞にふさわしいと評価されました。

田中昭彦氏はシダ植物を中心に, 鳥取県内の維管束植物や珪藻類などについて, 多数の調査研究をまとめ発表され, 地元地域の植物相の解明に大いに寄与されました。平成 23 年には, 調査研究の源である植物標本を鳥取県立博物館に寄贈されました。県内産を中心に約 5 万点あり, 博物館所蔵の植物標本は倍増し, 鳥取県・山陰の植物の自然史を解明する上で最も重要なコレクションとなりました。現在でも, 鳥取県立博物館の植物同定講師, 氷ノ山自然観察会指導員, NHK 文化センター鳥取教室の講師などとして, 県内の多くの場所で植物観察の指導にあたっておられ, 植物分類学の教育・普及にも大いに貢献されておられます。これらの功績は, 日本植物分類学会賞にふさわしいと評価されました。

このように、上記 2 名は、植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献があったと認められましたので、日本植物分類学会賞を授与することといたしました。

奨励賞：

堤千絵氏は、主に着生植物の進化研究を行い、シダ植物シノブ科では、着生性はつる性や半着生性をへて段階的に進化した可能性が高いということと、進化に伴って生じた形態の変化を示唆しました。ラン科クモキリソウ属では、着生種は胚サイズが増大していること、強光や低温でも高い発芽能力があること、共生菌に違いがあることを示しました。また、これらの分子系統関係を明らかにし、新種記載も行っています。近年では、ゼンマイ亜属の系統や雑種記載を行っています。これらの功績が高く評価されました。

東馬(大井)哲雄氏は、主に日華植物区系の植物多様性について、属から種内レベルの系統・進化について研究を実施してこられました。アオキ属では日本列島内での遺伝的・倍数性における地理的分化を明らかにし、現在は属内における倍数化・交雑や分類学的な問題に取り組んでおられます。またオオバウノスズクサ属では系統に基づき属の分類体系の再検討を行う他、近縁種群の種分化・交雑についても解析を進めてこられました。テンナンショウ属・ツルリンドウ属や小笠原産植物の多様性解析にも取り組んでおられます。これらの研究成果が高く評価されました。

中村剛氏は、琉球列島を対象に、種子植物相の島嶼間分化に関する定量的解析と、種レベルの系統地理学的解析を行い、植物地理パタンの形成要因を論じてこられました。陸橋断断による長期間の隔離の効果と、これと交絡する地理的距離や気温の緯度勾配の効果を区別する必要性を示し、古地理を専ら重視する従来仮説の見直しを行いました。また、琉球-オーストラリア隔離分布の分子系統による立証、台湾固有属の分類見直し、中琉球固有種に関する繁殖生態を考慮した分類の再検討、大東諸島の侵略的外来種の報告など、当地域の植物多様性の理解に努められました。これらの業績が高く評価されました。

このように、上記 3 名は優れた研究業績をあげた将来有望な若手研究者であり、日本植物分類学会奨励賞を授与することといたしました。

## 2011 年度日本植物分類学会論文賞の決定

論文賞選考委員会委員長 永益 英敏

2011 年度日本植物分類学会論文賞は、2011 年度に『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』および『分類』に発表された論文のうち、編集委員および論文賞選考委員から推薦された論文 4 編を論文賞選考委員会において審査し、次の 2 論文に決定しました。

Ootsuki, R., W. Shinohara, T. Suzuki & N. Murakami. 2011. Genetic variation in the apogamous fern *Cyrtomium fortunei* (Dryopteridaceae). Acta Phytotax. Geobot. 62 巻 1 号: 1-14 ページ

選考理由: 無配生殖をするヤブソテツにおいても地域個体群内に高い遺伝的多様性があることを明らかにした。遺伝子、アロザイム分析、比較形態、細胞学的解析、フィールドにおける分布情報など、さまざまな手法を統合的に活用することで無配生殖種内の多様性の実相に迫っている点で意欲的な論文である。

福原達人. 2011. Heterodichogamy(異型異熟)の自然史. 分類 11 巻 1 号: 35-46 ページ

選考理由: 植物の性表現の1つとして、よく認識されているとはいいがたい異型異熟について書かれた総説である。単なる先行研究の紹介にとどまらず、オリジナルなデータ、多様な植物の成熟段階を的確にとらえた美しい写真を提供することで、異型異熟の実態と多様性をわかりやすく紹介することに成功している。

## 2011 年度日本植物分類学会講演会の報告

講演会担当委員 岡崎 純子

2011 年度の日本植物分類学会講演会が 2011 年 12 月 17 日(土)に大阪学院大学で開催されました。現在の植物分類学会が設立されてから 11 回目の講演会となります。今回は 80 名の参加者がありました。ご講演頂いた演者とその演題は以下のとおりです。

角野 康郎(神戸大学大学院理学研究科): 日本の絶滅危惧水草をめぐって

東 浩司(京都大学大学院理学研究科): 日本産セリ科植物の系統分類

木場 英久(桜美林大学自然科学系): イネ科の小穂形態の基礎

山住 一郎(大阪府教育センター): シダの無配生殖と無孢子生殖—多様性を生む生殖法—

狩山 俊悟(倉敷市立自然史博物館): 岡山県の植物と岡山県植物誌への取り組み

シダ植物やイネ科・セリ科植物など日本列島にも数多くの種が分布し、分類学初心者には同定に苦労するグループの多様性を生み出している要因や、その形態的な基礎、分子系統を使った解明などのお話、また絶滅が危惧される種が多い水草の現状、さらに地域の植物相と植物誌の取り組みということで岡山県のお話を、それぞれの方々の研究の進展をもとに話題提供して頂きました。また、終了後に開催された懇親会には 24 名の参加者があり、アマチュア研究者の方々も多く参加して情報交換にも話が弾み、とても楽しいひとときを過ごすことができました。

今回の話題を提供して下さった 5 人の演者の方々、遠方より足をお運び下さった参加者の皆様方、並びにお忙しい中、会場の提供と準備をして下さった大阪学院大の林一彦先生に感謝いたします。

## 日本植物分類学会講演会に参加して

楠見 マリ(大阪教育大学大学院)・鶴田 翔子(大阪教育大学理科教育)

12 月 17 日、大阪学院大学にて 2011 年度植物分類学会講演会が開催されました。私達は講演会開催の知らせを指導教員の岡崎先生から聞き、今回の講演会に参加する機会を頂きました。今回の講演会参加が、私達学生にとって植物のスペシャリストとも呼べる経験豊富な先生達の話が聞ける素晴らしい学びの場となることを楽しみにしていました。

角野先生は水辺に生育する植物について研究されており、今回の講演は、過去に生存確認

されていた絶滅危惧水草で現状が把握されていない種について明らかにするという内容でした。私はその中でも特にカワゴケソウ科のカワゴロモとカワゴケソウに関する話に興味を持ちました。どちらも九州に分布し、生態・生育地が似通っているこの 2 種は、現状カワゴロモは生育良好なのに対し、カワゴケソウは消滅が確認されました。こうした環境に対する 2 種の適応の差はなぜ生じたのか、今後の研究報告が楽しみです。また、人の手によって本来の生育地から運びだされ、別の地域で

繁殖している種などの議論も大いに盛り上がり、とても楽しい講演でした。

東先生の講演は、日本におけるセリ科植物の分類についてでした。1867～2001年までのセリ科分類の研究をたどり、その変遷に新たにDNAのデータを加え、これまで外部形態によって分類されていたことにより生じていた様々な問題(ヒュウガセンキュウは新種か、それともオオバセンキュウの亜種なのか?など)を解き明かしていきました。しかし、こうして外部形態とDNAの情報をもってしても、よくわからない分類群も残っており、今後の展開に非常に興味を惹かれました。

木場先生の「イネ科の小穂形態の基礎」の講演では、イネ科植物をよく知らない人から同定が難しいと抵抗感を抱いている人まで、すべての人にわかりやすく楽しい講演でした。写真によって様々な種の小穂の形態を解説していただき、難しい用語も自然と覚えることができました。この講演を通して、私がイネ科に対して持っていた難しいというイメージが払拭され、もっとイネ科について知りたいと感じました。

山住先生はシダ植物の生殖について講演されました。写真や図とともに生殖の様子を詳しく解説していただき、そのなかでも半数体をつくる無配生殖、倍数体をつくる無胞子生殖といった生殖方法を用いることで、一倍体から四倍体までの遺伝型の異なる多様な個体を生み出しているのは驚きでした。教師を目指している私にとって、中学・高校でシダ植物の生殖方法について教えることは生物の多様性や生き残り戦略を理解するうえで非常に興味深い教材になると思いました。

狩山先生の講演は、岡山県の地形や気候に

関連してどのような植物が分布しているのか、そしてこれからの岡山県の植物誌への取り組みについてでした。石灰岩地や蛇紋岩地など特殊な地形を有する岡山県には多くの希少種が存在し、ナガバヤクシソウやハイノキ、ネコヤマヒゴタイなど私にとっては知らない植物ばかりで、新たな発見ばかり。非常に興味を持ちました。また、様々な場所で採集された標本が廃棄されずに残すことができるよう、NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークの標本救済ネットというシステム設立のお話は、素晴らしい取り組みだと思いました。1つでも多くの標本が、このシステムによって残されていくよう期待しています。

そして、講演がすべて終わった後の懇親会でも得ることはたくさんありました。私(鶴田)は今、大阪府で絶滅種とされているアイナエの研究をしています。そのなかで兵庫県立人と自然の博物館の標本庫を訪れ、アイナエの標本を見せていただいたのですが、その数少ない標本を採集された水田光雄さんや兵庫県博の藤井俊夫さんと今回の懇親会でお会いすることができました。採集時のお話など貴重なお話を聞かせていただき、とてもいい勉強になりました。まさか、標本を採集された方々にお会いする機会があると思っていなかったもので、とても感激しました。

今回の講演会は、私たちにとって本当に最後まで素晴らしい学びの場となりました。講演者の先生方、またこの場でお会いした多くの先生方から多くの貴重なお話、ご意見をいただきました。ありがとうございました。この1日で多様な植物の面白さを感じることができ、今後の私たちの研究もさらに深めていきたいと思いました。

#### 編集室より

情報提供・寄稿のほか叱咤激励を歓迎します。ご連絡は下記まで。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 植物学系 植物系統分類学

東 浩司 075-753-4125 (TEL&FAX) azuma@sys.bot.kyoto-u.ac.jp

**2011年度第1回評議員会議事抄録**

庶務幹事 西野 貴子

会場:東京大学 駒場キャンパス 15号館 104教室

日時:2011年9月16日 17:00~20:45

参加者

評議員:( )内は被委任者

出席[6名]:西田 佐知子, 大村 嘉人, 副島 顕子, 仲田 崇志, 藤井 紀行, 遊川 知久

委任状出席[5名]:秋山 弘之(西田), 五百川 裕(議長), 瀬戸口 浩彰(議長), 藤井 伸二(議長), 村上 哲明(議長)

幹事会・委員会委員長:( )内は役職

出席[11名]:戸部 博(会長), 西野 貴子(庶務), 保坂 健太郎(会計), 鈴木 武(図書), 東 浩司(ニュースレター), 永益 英敏(編集委員長), 西田 佐知子(和文誌編集), 西田 治文(自然史学会連合), 梶田 忠(植物分類学関連学会連絡会・日本分類学会連合), 伊藤 元己(植物データベース専門委員会委員長), 高宮 正之(学会賞選考委員長)

欠席[6名]:福原 達人(ホームページ), 岡崎 純子(講演会), 田村 実(野外研修会), 角野 康郎(絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会委員長), 樋口 正信(絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会委員長), 村上 哲明(前学会賞選考委員長)

1. 評議員会開催にあたり戸部会長から挨拶があった。
2. 西野庶務幹事により, 定足数が確認された。会長, 評議員の出席 6 名, および委任状による出席 5 名で, 本評議員会は成立した。
3. 評議員会議長に遊川知久氏が選出された。議事録署名人として, 大村嘉人氏, 副島顕子氏が選出された。
4. 報告事項
  - 4.1 自然史学会連合関連報告 2010 年度活動報告および 2011 年度活動計画。
  - 4.2 日本分類学会連合報告 2010 年度活動報告および 2011 年度活動計画。
  - 4.3 植物分類学関連学会連絡会報告 2010 年度活動報告および 2011 年度活動計画。
  - 4.4 各種委員会に関する報告
    - (1) 編集委員会 英文誌『APG』および和文誌『分類』の編集状況。
    - (2) 学会賞選考委員会 日本植物分類学会賞の選考経過と課題。
    - (3) 論文賞選考委員会 日本植物分類学論文賞の選考経過と課題。
    - (4) 植物データベース専門委員会 現状説明と活動報告。
    - (5) 絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会および専門第二委員会 現状説明と活動報告。
  - 4.5 図書関連報告 寄贈雑誌・交換状況の説明。
  - 4.6 日本植物分類学会講演会報告 2010 年度実施および 2011 年度準備状況。
  - 4.7 ニュースレターに関する報告 2010 年度発行状況および 2011 年度発行計画。
  - 4.8 ホームページ・メーリングリスト関連報告 学会公式 HP および ML の運用状況。
  - 4.9 会務報告 2010 年度の事業報告。

4.10 会計報告 会員状況, 会費納入状況。

4.11 その他

(1) 野外研修会について 2011 年実施報告。

(2) 「国際植物命名規約邦訳委員会」のたちあげについて 経緯報告。

5. 審議事項

5.1 2010 年度事業報告(案)について

西野庶務幹事より, 2010 年度事業報告(案)が提案され, 質疑後, 2項目の修正が行われた後に承認された。

5.2 2010 年度決算報告(案)について

保坂会計幹事より, 2010 年度決算報告(案)が提案され, 質疑後, 6 項目の修正が行われた後に承認された。

5.3 2011 年度事業計画(案)について

西野庶務幹事より, 2011 年度事業計画(案)が提案され, 質疑後, 5項目の削除・修正が行われた後に承認された。

5.4 2011 年度予算(案)について

保坂会計幹事より, 2011 年度予算(案)が提案され, 質疑後, 6項目の削除・修正が行われた後に承認された。

5.5 次期監事候補の推薦について

吹春俊光氏と池田博氏を総会に推薦することが承認された。

5.6 名誉会員の推薦について

戸部会長より, 会則第 5 条に基づき会員 6 名を名誉会員候補として, 総会に推薦することが承認された。

5.7 除名について

戸部会長より 5 年分の会費を滞納している会員 13 名の除名について提案があり, 審議の結果, 承認された。

6. その他

6.1 第 11 回大会開催地について

戸部会長より説明があり, 林一彦氏(大会会長:大阪学院大学), 高橋晃氏(大会準備委員長:兵庫県立人と自然の博物館)のお世話により吹田市において開催されることが承認された。

6.2 日本植物分類学会創立 10 周年記念事業について

戸部会長より記念出版物について進行状況の説明があった。

6.3 総会議事について

西野庶務幹事より, 2011 年度総会議事次第(案)が説明され, 承認された。

6.4 第 10 回大会の震災による代替措置について

戸部会長より説明があり, 事後処理についても第 10 回大会準備委員会が対応することを確認した。

## 2011 年度総会議事抄録

庶務幹事 西野 貴子

会場: 東京大学 駒場キャンパス 15 号館 104 教室

日時: 2011 年 9 月 17 日 12:00~13:00

1. 総会に先立ち戸部会長から挨拶があった。
2. ひきつづき、逝去された学会員、東日本大震災の犠牲者の方々への黙祷が捧げられた。
3. 西野庶務幹事より総会出席者が 22 名(後に 28 名)であることが報告された。
4. 遊川知久氏が総会議長に選出された。
5. 報告事項
- 5.1 会務報告  
西野庶務幹事より、報告内容は第一号議案と同じであるので議案審議の際に報告するとの説明があった。保坂会計幹事より、会員数は前年度と較べてほぼ変動がないことが説明された。
- 5.2 各委員会からの報告  
西野庶務幹事より、総会の開催時間の制約があり審議時間の確保のため割愛したい旨の申し出があり、了承された。
6. 審議事項
- 6.1 第一号議案 2010 年度事業報告、ならびに 2010 年度決算報告書の承認の件  
前年度の事業報告と決算報告が西野庶務幹事と保坂会計幹事よりそれぞれ行われた。綿野監事、中村監事より、会務および会計が適切に行われているとの監査報告があった。審議の結果、賛成 22 票、反対 0 票で、出席者全員(22 人)より承認された。
- 6.2 第二号議案 2011 年度事業計画、ならびに 2011 年予算案承認の件  
西野庶務幹事と保坂会計幹事より上記二件について説明があった。審議の結果、賛成 28 票、反対 0 票で、出席者(28 人)の 3 分の 2 以上をもって承認された。
- 6.3 第三号議案 次期監事の選出について  
役員等の選出についての細則第 6 条に基づき、評議員会から、池田博(東京大学)、吹春俊光(千葉県立中央博物館)の両氏が推薦され、賛成 28 票、反対 0 票で、出席者全員(28 人)より承認された。
- 6.4 第四号議案 名誉会員の推薦について  
会則第 5 条に基づき、次の 6 名の方が名誉会員に推薦された。  
秋山 守氏、須賀 瑛文氏、太刀掛 優氏、水野 瑞夫氏、吉村 衛氏、渡辺 定路氏。  
審議の結果、異議なく承認された。
7. その他
- 7.1 第 10 回大会の震災による代替措置について  
戸部会長より、第 10 回大会の震災による代替措置についての経緯説明がなされた。
- 7.2 第 11 回大会の開催について  
戸部会長より、次回の第 11 回大会についての告知がなされた。
- 7.3 日本植物分類学会創立 10 周年記念事業について  
戸部会長より、進行状況の説明があった。
- 7.4 国際植物命名規約邦訳委員会について  
戸部会長より、国際植物命名規約邦訳委員会の編成についての説明が行われた。

## 2011 年度第 3 回メール評議員会議事抄録

庶務幹事 西野 貴子

2011 年 12 月 23 日～2012 年 1 月 17 日に 2011 年度第 3 回メール評議員会が開催されましたので、議事抄録を報告します。この会議は事業報告案と事業計画案、会計決算案と予算案を評議員の方々に審議していただき、総会までの会務・会計執行の指針を得るためのものです。なお、本ニュースレターでお知らせする 3 月 22 日の評議員会と 24 日の総会に提案される議案には、その後の推移を反映した最低限の修正が加えられている箇所がありますことをご了承ください。

開催日時:2011 年 12 月 23 日～2012 年1月 17 日

開催方法:電子メール等の媒体を用いた会議

参加者:評議員全員

### 議長選出

慣例に従い戸部博氏を議長とすることに反対はなかった。

### 審議事項

第 1 号議案 2011 年度事業報告案

第 2 号議案 2011 年度決算案

第 3 号議案 2012 年度事業計画案

第 4 号議案 2012 年度予算案

### 審議結果

第 1 号議案は、賛成 11 票、反対 1 票、白票 1 票で承認された。

第 2 号議案は、賛成 12 票、反対 0 票、白票 1 票で承認された。

第 3 号議案は、賛成 12 票、反対 0 票、白票 1 票で承認された。

第 4 号議案は、賛成 12 票、反対 0 票、白票 1 票で承認された。

議事録署名人として村上哲明氏と仲田崇志氏が選出された。

## 庶務報告(2011 年 11 月～2012 年 1 月)

庶務幹事 西野 貴子

- ・日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会のアンケートについて回答を行った。(1月19日)
- ・牧野富太郎博士生誕 150 年記念展「植物学者・牧野富太郎の足跡と今」(財団法人高知県立牧野記念財団と独立行政法人国立科学博物館の共催)への名義後援を承諾した。(1月28日)

### 会費納入はお済みですか？

- ・会費は前納制です。2012 年度会費は前年中に納入する必要があります。
- ・まだ納入されていない方は至急納入ください。
- ・適正な学会運営のために、皆様のご協力をよろしくお願いします。  
(金額、振込先は最後ページをご覧ください)
- ・特に、大会にて研究発表を行う場合は会費完納は必須です。
- ・なお、長期滞納者に対しては、規約第 10 条(2)に基づき、除名を行っております。
- ・ご不明の点があれば、会計幹事までご連絡ください。

## お知らせ

### 日本植物分類学会第 11 回大会公開シンポジウムのご案内

第 11 回大会準備委員会 高橋 晃

【日時】 3 月 25 日(日) 13:00~16:00

【場所】 大阪学院大学(大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号) 2 号館 B102 教室

【テーマ】 「市民とともに~地域の植物研究での連携と成果」

#### 【内容の紹介】

植物分類学の分野では、伝統的に研究者と地域の研究者とともに調査研究を行ってきましたが、近年の市民活動の広がりを受けて、研究者と市民とのさまざまな連携が行われています。今回のシンポでは、西日本で、研究者と市民が連携した調査研究や保全活動の事例をとりあげ、植物分類学と市民との多様な関わりを紹介します。

どなたでもご来聴いただけます(事前の申込みならびに参加費は不要です)。

### 評議員会開催のお知らせ

庶務幹事 西野 貴子

日本植物分類学会第 11 回大会(於:大阪学院大学)の開催に合わせ、下記の通り評議員会を開催します。評議員、幹事会等の関係各位のご出席をお願いいたします。大会会場とは異なりますのでご注意ください。

日時: 2012 年 3 月 22 日(木) 16 時~19 時

会場: 京都大学理学部 2 号館 113 号室 (京都市左京区北白川追分町)

詳細は関係各位において連絡いたしますが、今回の評議員会においては、総会における審議事項と同様の内容が審議されるほか、会費納付率を含む会計における現在の諸問題を中心に、将来的な方針についても議論いただく予定です。審議事項についてご意見やご希望がございましたら、評議員、会長、幹事、委員長のいずれかにお伝えください。

### 2012 年度総会のお知らせと審議事項

庶務幹事 西野 貴子

3 月 24 日に開催される総会において、以下の議案が審議されます。会員各位の参加をお願いいたします。

1. 2011 年度事業報告案(10 ページ参照)
2. 2011 年度決算報告案(12 ページ参照)
3. 2012 年度事業計画案(13 ページ参照)
4. 2012 年度予算案(14 ページ参照)

#### 2011 年度事業報告(案)

##### (1) 集会等の開催

・学術集会, 講演会, 研修会

年次学術集会(日本植物分類学会第 10 回大会)の要旨集発行による代替開催を行った(ニュー

スレターNo. 41 で報告)。

2011 年度野外研修会を北海道支笏洞爺国立公園, 定山溪, 札幌近郊の八剣山で開催した(7月8~10日)(ニュースレターNo.43で報告)。

2011 年度講演会を大阪学院大学で開催した(12月17日)(ニュースレター本号で報告)。

#### ・総会、評議員会

年次総会を東京大学駒場キャンパスで開催した(9月17日)(ニュースレター本号で報告)。

評議員会を1回(ニュースレター本号で報告), メール評議員会を3回(ニュースレターNo.40, 42および本号でそれぞれ報告)開催した。

#### (2) 出版物の刊行

・学会誌の発行: 英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第61巻3号, 第62巻1号(計2冊)を発行した。和文誌『分類 [日本植物分類学会誌]』第11巻 1-2号(計2冊)を発行した。

・ニュースレター: 『日本植物分類学会ニュースレター』40-43号(計4冊)を発行した。

#### (3) 委員会活動

・絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会(角野委員長)

・絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会(樋口委員長)

第3次レッドリスト見直しが始まり, 調査対象種の選定, 調査者への依頼, 現地調査, 調査記録の整理の順で調査を4グループ(菌類, 地衣類, 藻類, コケ類)ごとに実施し, それをもとに評価選定リスト(案)作成した。第一委員会の結果と合わせ報告書を作成し, 環境省へ提出した。さらに2011年(H23)の契約を行い, 現地調査を実施中である。

・植物データベース専門委員会(伊藤委員長)

APGIII 分類体系の日本産被子植物についての科の和名を整理中である。

・学会賞選考委員会(ニュースレター本号で報告)

・論文賞選考委員会(ニュースレター本号で報告)

#### (4) 表彰

・日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)の授与を行なった(ニュースレターNo.40で報告)。

・日本植物分類学会論文賞の授与を行なった(ニュースレターNo.40で報告)。

#### (5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

・学会連合等への参加・連携を行なった: 日本学術会議, 植物分類学関連学会連絡会, 自然史学会連合, 日本分類学会連合。

・日本・韓国・中国合同国際シンポジウム「East Asian Botany: International Symposium 2011」の要旨集発行による代替開催を行った(ニュースレターNo.41で報告)。

・日本学術集会公開シンポジウム「緊急集会: 被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて学術コミュニティは何をすべきか?」を後援した(2011年6月6日: ニュースレターNo.42で報告)。

#### (6) その他

・学会刊行物のバックナンバー等を販売した。

・植物分類学関連情報(学術集会, 研究動向, 出版物, 公募)を収集し, ニュースレター, ホームページ等で提供した。

・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行なった。

・植物分類学関連本の編集を行った。

・国立情報学研究所(NII)の学協会情報発信サービス「ホームページ構築・提供支援」の停止(2012年3月予定)にともない, 学会HPのサーバ変更, およびサイト移転作業を開始し, 継続中である。

2011年度決算報告 (2011.12.31)

収入の部	単価	数	予算	決算	予算との差異
会費					
通常(一般)	5000	785	3925000	3674160	250840
通常(学生/海外)	3000	100	300000	126000	174000
団体会員	8000	27	216000	208000	8000
バックナンバー販売			100000	124500	△ 24500
命名規約販売			20000	47500	△ 27500
利息			20	674	△ 654
雑収入			50000	172721	△ 122721
小計			4611020	4353555	257465

注1

支出の部	単価	数	予算	決算	予算との差異
大会補助費			100000	100000	0
講演会補助費			50000	46040	3960
出版物印刷費					
APG vol.61(3), 62(1,2,3)	650000	4	2600000	1347045	1252955
分類vol.11(1,2)	500000	2	1000000	999075	925
ニュースレターNo.40-43	55000	4	220000	193700	26300
英文校閲費			60000	0	60000
出版物送料					
APG送料	80	4400	352000	86321	265679
和文誌送料	80	2000	160000	159158	842
NL送料	60	4000	240000	109536	130464
会議費			50000	37250	12750
学会賞表彰経費			60000	46200	13800
自然史学会連合負担金			20000	20000	0
分類学会連合負担金			10000	10000	0
事務局管理費					
消耗品費			50000	31252	18748
交通費			100000	42160	57840
アルバイト賃金			300000	205462	94538
封筒等印刷費			250000	230370	19630
通信費(小包手数料を含む)			70000	101100	△ 31100
手数料・その他			30000	25360	4640
自動振替集金代行基本料			3150	3150	0
自動振替口座確認手数料	190	126	23940	22029	1911
自動振替新規手数料			0	0	0
レンタルサーバー使用料			15000	20640	△ 5640
予備費			100000	30000	70000
合計			5864090	3865848	1998242

注9

単年度収支	△ 1253070	487707	△ 1740777
前年度からの繰越金	9634098	9634098	0
次年度への繰越金	8381028	10121805	△ 1740777

注1: 大会補助費返還分(10万円)及び著作権使用料

注2: APG62(2,3)は2012年度へ繰り越し

注3: 次年度に支払い予定

注4: 複数誌の同時発送により節約

注5: 会議室代、お弁当代

注6: 震災にともなう大会の代替措置連絡で支出が増したため

注7: 自動振替サービスの解約があったため

注8: 一部プラン変更に伴う料金変更

注9: 「緊急集会:被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて—学術コミュニティは何をすべきか?」後援

特別会計 2011年度決算

収入	予算	決算	予算との差異
前年度繰越金	2196011	2196011	0
利息	0	0	0
合計	2196011	2196011	0
支出			
次年度への繰越金	2196011	2196011	0
合計	2196011	2196011	0

## 2012 年度事業計画(案)

## (1) 集会等の開催

- ・学術集会, 講演会, 研修会  
年次学術集会, 日本植物分類学会第 11 回大会(大阪学院大学; 3 月 23~25 日)を開催する。  
2012 年度講演会を開催する。  
2012 年度野外研修会を開催する。
- ・総会, 評議員会  
年次総会を年次学術集会に合わせて開催する(3 月 24 日)。  
評議員会を開催する(3 月 22 日)。

## (2) 出版物の刊行

- ・学会誌の発行  
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 62 巻 2-3 号および第 63 巻 1-3 号(計 5 冊)を発行する。  
和文誌『分類 [日本植物分類学会誌]』第 12 巻 1-2 号(計 2 冊)を発行する。
- ・ニュースレター『日本植物分類学会ニュースレター』44-47 号(計 4 冊)を発行する。
- ・植物分類学関連本の出版を行う。

## (3) 委員会活動

以下の委員会を組織し, 目的に沿って活動する。

- ・絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会
- ・絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会
- ・植物データベース専門委員会
- ・学会賞選考委員会
- ・大会発表賞選考委員会
- ・論文賞選考委員会
- ・国際植物命名規約(メルボルン規約)邦訳委員会 (委員長:大橋広好)

## (4) 表彰

- ・日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)の授与を行なう。
- ・日本植物分類学会論文賞の授与を行なう。
- ・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行なう。

## (5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・国内学会連合等への参加・連携を行なう: 日本学術会議, 植物分類学関連学会連絡会, 自然史学会連合, 日本分類学会連合など。
- ・The Korean Society of Plant Taxonomist (KSPT)および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC)と連携する。
- ・第 13 回国際花粉学・第 9 回国際古植物学合同会議(2012 年 8 月 23~30 日)への協力を行う。

## (6) その他

- ・学会刊行物のバックナンバー等の販売を行う。
- ・植物分類学関連情報(学術集会, 研究動向, 出版物, 公募)を収集し, ニュースレター, ホームページ等で提供する。
- ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換をする。
- ・会長・評議員の選挙を行う。

## 2012年度予算(案)

収入の部	単価	数	予算	前年度予算との差異
会費				
通常(一般)	5000	755	3775000	△ 150000 注1
通常(学生/海外)	3000	91	2730000	△ 27000 注1
団体会員	8000	26	208000	△ 8000 注1
バックナンバー販売			100000	0
命名規約販売			0	△ 20000 注2
利息			500	480 注3
雑収入			50000	0
合計			4406500	△ 204520

## 支出の部

大会補助費			100000	0
講演会補助費			50000	0
出版物印刷費				
APG vol.62(2,3), 63(1,2,3)	650000	5	3250000	650000 注4
分類vol.12(1,2)	500000	2	1000000	0
ニュースレターNo.44-47	55000	4	220000	0
英文校閲費			100000	40000 注5
出版物送料				
APG送料	80	5500	440000	88000 注4
和文誌送料	80	2000	160000	0
NL送料	60	4000	240000	0
会議費			50000	0
学会賞表彰経費			60000	0
自然史学会連合負担金			20000	0
分類学会連合負担金			10000	0
事務局管理費				
消耗品費			50000	0
交通費			100000	0
アルバイト賃金			300000	0
封筒等印刷費			0	△ 250000 注6
通信費(小包手数料を含む)			70000	0
手数料・その他			30000	0
自動振替集金代行基本料			3150	0
自動振替口座確認手数料	126	170	21420	△ 2520 注7
自動振替新規手数料			0	0 注8
レンタルサーバー使用料			20000	5000 注9
国際シンポジウム積立金			300000	0 注10
予備費			150000	50000 注11
合計			6744570	580480

単年度収支	△ 2338070
APG62(2,3)を除いた単年度収支	△ 862070
前年度からの繰越金	10121805
次年度への繰越金	7783735

注1: 会員数見直しによる(名誉会員増, 退会・除名・逝去など)

注2: 特別会計に組み込む

注3: 2011年度に合わせて変更

注4: 2011年度未発行分(vol62 no.2,3)を含める

注5: 2011年度未払い分をまとめて支払うため

注6: 新たな印刷は必要ないため

注7: 自動振替サービス利用者数変更による

注8: 新規手数料がかからなくなったため

注9: 一部プラン変更に伴う料金変更

注10: 2013・2014年度とも30万円を計上予定

注11: 会長・評議員の選挙費用を含む

## 特別会計 2012年度予算(案)

収入	予算	前年度予算との差異
前年度繰越金	2196011	0
命名規約販売	20000	20000
国際シンポジウム積立金	300000	
利息	0	0 注1
合計	2516011	320000 注2
支出		
命名規約和訳出版	200000	200000
次年度への繰越金	2316011	△ 120000
合計	2516011	320000 注3

注1: 2012年度より特別会計に組み込み

注2: 一般会計から移管。2013・2014年度とも30万円を移管予定。

注3: 2013年度は160万円を計上予定

## 2012 年度野外研修会のお知らせ

---

五百川 裕 (上越教育大学)

「妙高山麓の植物」

期日: 2012 年 9 月 21 日(金)~23 日(日)

今年度の野外研修会を新潟県上越地方の妙高山麓で開催させていただくことになりました。詳細や募集要項は次号ニュースレターに掲載予定ですが、現在のところ、以下のようなスケジュールを考えています。

第 1 日 (21 日) 昼頃に妙高高原駅前集合, 苗名滝周辺ブナ林観察, 燕温泉泊

第 2 日 (22 日) 妙高山登山か笹ヶ峰散策に分かれて植物観察, 赤倉温泉泊

第 3 日 (23 日) 午前中に沼の原湿原で植物観察, 昼頃解散

幹事の都合で秋の開催となりますが、ミウコウトリカブトやミウコウアザミなど秋咲きの植物を観察していただけるように計画したいと思います。

## 編集委員長交代のお知らせ(予告)

---

会長 戸部 博

長きにわたり編集委員長・英文誌編集担当委員を京都大学の永益英敏氏に務めていただきましたが、現在多忙を極める状況にあります。そこで、「役員等の選出についての細則」第5条にもとづき、同じく京都大学の田村実氏に編集委員長・英文誌編集担当委員をお願いすることになりました。任期途中ではありますが、3月末をもって交代することとなります。

なお、英文誌編集担当委員の交代に伴い、4月1日以降の『APG』への電子投稿は以下のメールアドレスをお願いします。

apg@biol.sci.kyoto-u.ac.jp

## 寄稿

---

### 学名のラテン語(9)

---

永益 英敏 (京都大学総合博物館)

#### 学名をカタカナにする

「学名のラテン語(8)」(永益 2011)において、世界ではラテン語および学名がさまざまな発音で読まれていることを述べた。学名を「書き言葉」として扱う限り、発音の問題は重要ではなく、また植物学者の間では多少の発音のずれがあっても意思疎通に問題はない。

しかしながら、ローマ字アルファベットを日常的に国語の表記に用いない日本では、ローマ字で書かれた学名をカタカナに置き換えなければならない場合がある。一般向けの著作や新聞等において、ある生物の名前が確立した日本語由来の和名を持たないとき、学名がカタカナに置き換えられている例がもっともわかりやすいであろう。この場合には多少の表記のずれがあっても大きな問題とはならないが、生物種を

特定する必要がある公文書や法令のような場合には表記のぶれは混乱を招くおそれがある。なんらかの標準的な方法が必要であることは理解されよう。

カタカナは表音文字であるので、学名をカタカナに置き換えるということはその発音を固定することでもある。古典ラテン語式と英語式ではラテン語の発音が大きく異なることは前回に述べたが、カタカナにするときにどの発音をもとにするのがよいであろうか？ 何らかの標準的な方法は提案されていないのだろうか？

『文部省学術用語集植物学編(増訂版)』(文部省・日本植物学会 1990)には参考(pp. 615–661)として植物科名の標準和名のリストが挙げられているが、この参考の前書きに「(4)ラテン名の片仮名書きについては、原則として 1953 年の日本植物分類学会の申合せに従う。」とある。この「申合せ」というのは、『日本植物分類学会会報』第 3 号(1953: 1–3)に掲載された「ラテン語の撥音及びカナ文字化」という記事にある「ラテン語の実際的なカナ文字化(案)」のことである。この申合せに従い、顕花植物については植物学雑誌 65 巻(日本植物分類学会 1952)、隠花植物については同 69 巻(日本植物分類学会 1956)に植物科名に関する標準和名表が提案された。

国立情報学研究所の CiNii Books を検索してもこの申合せが掲載された第 3 号は国立科学博物館のみしか所蔵していないようなので、ここに再掲しておきたい(次頁)。

この申合せ(案)はよく考えられていて、その原則は次のようなものである: 1) 古典ラテン語の発音を基礎とする; 2) 二重母音はそれぞれの母音ごとにカタカナにし、字を小さくしたりしない; 3) 長音符号はなるだけ用いない; 4) 子音の次に母音がない場合には[u]の音を補う(-tr, -dr の場合は t, d のあとに[o]の音を補う); 5) ギリシア語由来の帯気音 h は ph(ファ、フィ、フ、フェ、フォ)を除いて無視する; 6) ラテン語またはラテン語化されたギリシア語以外の固有名詞は原則として、その語本来の発音による。

日本語の発音になじみやすい古典ラテン語の発音を採用しており、わかりにくい母音の長短についてはすべて短母音として処理する。カタカナにしにくい帯気音は無視、ph, v についてはより後代の発音でわかりやすい[f], [v]の音を採用する。ただ、外来語があふれている現在ではいささか古くさい印象を受けないこともない。Di, ti はディ、ティにしたいような気もする。*Nasturtium* はナスツルチウムかナスツルティウムか、どちらがいいだろうか。

もっとも、この申合せが法令等で常に採用されているというわけでもない。たとえば麻薬及び向精神薬取締法別表第二に挙げられている麻薬原料植物のカタカナ表記は次の通りである。

- 一 エリスロキシロン・ココ・ラム(和名コカ)
- 二 エリスロキシロン・ノヴォグラナテンセ・ヒエロン
- 三 パパヴェル・ブラクテアツム・リンドル(和名ハカマオニゲシ)

(もとの学名は *Erythroxylon coca* Lam., *E. novogranatense* Hieron, *Papaver bracteatum* Lindl.)

また、週刊朝日百科『植物の世界』(1994–1997)で採用されているカタカナ書きの「学名」は著者によりまちまちで換字の方法は統一されていない。このような視点から最近出版された APG システムを採用した植物分類表のカタカナ表記を較べてみるのもおもしろい(大場 2009, 米倉 2009)。

- 永益英敏. 2011. 学名のラテン語(8) 学名を発音する. 日本植物分類学会ニューズレター 41: 5–6.  
日本植物分類学会. 1952. 植物科名に関する標準和名表. 植物学雑誌 65: 200–203.  
日本植物分類学会. 1956. 植物科名に関する標準和名表(II). 植物学雑誌 69: 169–176.  
大場秀章(編著). 2009. 植物分類表. アポック社, 鎌倉.  
米倉浩司(著)・邑田仁(監修). 高等植物分類表. 北隆館, 東京.

## ラテン語の実際的なカナ文字化 (案)

(×印は採用しない例を示す)

A	ae	アエ	例: <u>Chamaesiphonaceae</u>	カマエシフオン		
	au	アウ				
	ei	エイ				
	eu	エウ	<u>Pleurococcaceae</u>	プレウロコックス		
	oe	オエ	<u>Coelastraceae</u>	コエラストルム		
	ui	ウイ				
B	y	イ	例: <u>Oocystaceae</u>	オーキスチス		
	s	サシ	ス	セソ		
	z	ザジ	ズ	ゼゾ		
	t, th	タテ	ツ	テト		
	d	ダジ	ズ	デド		
	k, c, ch, ku	カキ	ク	ケコ		
	g, gu	ガギ	グ	ゲゴ		
	b, v	バビ	ブ	ベボ		
	f, ph	ファ	フィ	フエ	フホ	
	l, r, rh	ラリ	ル	レロ		
	x	クサ	クシ	クス	クセ	クソ
		例: <u>Ceratiomyxaceae</u>	ケラチオミキサ	(×ケラチオミキサ)		

C 上例以外で子音の次に母音のない場合は子音の次に u を入れたごとくする。

例: pro	プロ
chloro	クロ
pto	プト
bto	ブト
psa	プサ
bso	ブソ
archi	アルキ (Arcyriaceae アルキリア)
ecto	エクト

ただし, tr, dr の場合は o を入れたごとくにする。

例: -trum	ト	トルム (×トツルム)
-dendron	デ	デンドロン (×デンドズロン)

D mp, mb の場合 ン を用い ム を用いない。

例: <u>Melampsoraceae</u>	メラ <sup>ン</sup> ブソラ (×メラ <sup>ム</sup> ブソラ)
--------------------------	--------------------------------------------

E 長音符号の場合「-」はなるべく用いない。

例: <u>Chlamydomonadaceae</u>	クラミド <sup>ム</sup> モナス (×クラミド <sup>ー</sup> モナス)
------------------------------	------------------------------------------------

Valoniaceae バロニア (×バローニア)

Phacotaceae ファコツス (×ファコーツス)

ただし

Oocystaceae オーキスチス (×オウキスチス, ×オキスチス)

F 子音が2個つづく場合 促音となる。ただし, ll, rr, mm, nn は別。

例: Pleurococcaceae プレウロコックス

Lessoniaceae レッソニア

ll, rr の場合 l, r のごとくする。

例: Palmellaceae パルメラ (×パルメルラ, ×パルメツラ)

mm, nn の場合 n+m, n+n のごとくする。

例: Commelinaceae コンメリナ

Cannaceae カンナ

G -ium の場合 イウムとする。

例: Gymnodinium ギムノジニウム (×ギムノジニューム)

-ia の場合 イアとする。

例: Valoniaceae バロニア (×バロニア)

H ラテン語又はラテン語化されたギリシャ語以外の語の固有名詞は原則として, その語本来の発音による。(濫海の会の決定による)。

例: Raboulbeniaceae ラブルベニア

Chantransiaceae シヤントランシア

Nitzschaceae ニツチア

Goebelliellaceae ゲーベリエラゴケ

Treubiaceae トロイブゴケ

Anziaceae アンチゴケ

以上伊藤洋博士の協力を得た点が多い。

## 書評

## 菌類の生物学—生活様式を理解する—

D.H.ジェニンクス・G.リゼック 著／広瀬 大・大園 享司 訳  
 京都大学学術出版会／発行 ISBN978-4876985562  
 定価 2,500 円＋税 A5 判 208+xiv ページ

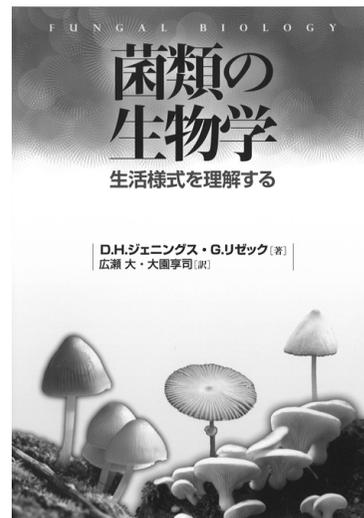
菌類のことを初めて勉強する学生が、菌類とはどんな生物かを体系的に理解するため、最初に手に取るべき本として極めて適切な本、それが本書である。

菌類はきのこ・カビ・酵母の総称で、基本構造は菌糸(酵母においては基本的には単細胞生物だが、これは菌糸の変形として理解される)であり、孢子で増えるというのが共通の特徴である。菌類の分類を理解する上では、どのようにして、どのような孢子をつくるか、が注目され、体細胞である菌糸についてはあまり注目が払われていない。それは、菌糸が円筒形の細胞が連続しているだけの、形態的にはあまり分化しているとはいえない構造であるためである。そのため、多くの菌類の教科書は、子実体やそのほかの孢子の形成構造、孢子の形態の多様性などから説きおこし、分類や生態的に多様な菌類の個別の特徴を網羅的に記述するのが常である。ところが、逆に考えると、菌類はなぜ、この区別ができないような構造を共通して持つのか、ということが不思議に思えてくる。本書は、あえて菌糸という形態を深く・分析的に観察し、とりわけ栄養を得るための構造として、その機能を知り、再びその機能を統合的に理解することによって、菌糸という構造の特性を理解し(第一部)、菌類を取り巻く環境への対応(第二部)、繁殖構造の機能や生活史の理解(第三部)へと発展させることによって、菌類の生き方を生物学的に理解することに重点を置いている。もちろん、多様性についても、部分的に言及されているが、本書では各論を網羅するよりも、全体を流れる通奏低音としての菌類のバイオロジー理解のための配慮が常になされている。

本書は、いわゆる分類学の教科書ではない。そのため、分類体系や形態学的な多様性についての説明は巻末に3つの付録として簡潔にまとめられている(付録Aは代表的な菌類の生活環、Bは分類表、Cは発展的な学習を進める上での文献。これらについては、著者により追加的な情報

も加えられた)。本書は、「多様性」が重視される分類学や生態学の対局として、「一様性」を重視して菌類という菌類のライフスタイルが理解できるように工夫されている。その基盤をなしているのは、もっとも形態的な特徴にとぼしい「菌糸」という構造である。しかし、そこから説き起こされる菌類のライフスタイルの体系的な説明は、大変ダイナミックで感動的である。本文は173頁と比較的コンパクトながら、菌類という生物の特徴を体系的に把握するには最適な書である。

(細矢 剛, 国立科学博物館)



■ 「菌類の生物学」の購入方法

今回の学会員の頒布に限り割引があります。税込割引価格1冊2,100円、送料200円です。下記より直接出版社にお申し込みください。

<http://www.kyoto-up.or.jp>  
 割引クーポン: FUN940  
 (2012年3月末迄有効)

配送先情報記入ページにクーポン記入欄あり。  
 [問合せ先]: 京都大学学術出版会 営業室  
 TEL 075-761-6182 / sales@kyoto-up.or.jp

# 『新しい植物分類学 I』がついに刊行！

10周年を迎えた日本植物分類学会が監修した、第一線で活躍する研究者が最新の成果を交えて研究を紹介した冊子がついに3月下旬に刊行します。

## 『新しい植物分類学 I』

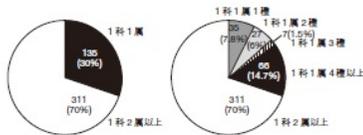
日本植物分類学会／監修，戸部 博・田村 実／編著，  
講談社／発行，ISBN: 978-4061534483  
予定価 2,940 円，A5 判，256 ページ(予定)，刊行予定 2012 年 3 月下旬

### 予定目次(かっこ内は執筆者、敬称略)

- はじめに(戸部博・田村実)
- 被子植物(戸部博)
- モクレン科(東浩司)
- クスノキ科(西田佐知子)
- コラム1(荻沼一男)
- ウマノズクサ科(大井・東馬哲雄, 渡邊・東馬加奈)
- マツモ属(岩元明敏)
- キンポウゲ科(門田裕一)
- コラム2(河原孝行)
- ヤナギ属(東隆行)
- カワゴケソウ科(加藤雅啓)
- モウセンゴケ科(長谷部光泰)

- コラム3(植田邦彦)
- 単子葉植物(田村実)
- サトイモ科(邑田仁)
- トチカガミ科(田中法生)
- コラム4(福原達人)
- ヒナノジャクジョウ科(塚谷裕一)
- タコノキ科(宮本旬子)
- コラム5(高橋英樹)
- シライトソウ属(牧雅之)
- ショウジョウバカマ属(布施静香)
- コラム6(落合雪野)
- ラン科(遊川知久)
- ラン科クモキリソウ属(堤千絵)

### 内容見本(一部)



新しい分類の1つの特徴は、小さな科が多い点である。1科あたり22,000種を超える科(キク科、ラン科)がある一方、1種だけからなる科も35科(全体の7.8%)存在する。種数に関わらず1属だけからなる科は135科(30%)にも達している(図3)。ちなみに属数に無関係に10種以下からなる科は148科(33%)である。これらの小さな科はいわば生きた化石であり、植物進化と多様性を知る重要な手がかりをもっている可能性がある。それらの科が失われれば、その中に残されていた進化の証拠も失われてしまう。しかし、小さな科の多くはまだ十分な形態観察(生活史も含む)が行われていない。その意味では、今や分子情報に対して形態情報の研究が遅れをとっていると言える。

#### 「原始被子植物群」に原始形質を探す：被子植物の最初の胚嚢

被子植物の系統関係がわかると、被子植物の原始形質(祖先に共通の特徴)は何か、派生形質(進化過程で新たに獲得された特徴)は何か知ることができる。「原始被子植物群」には被子植物の原始形質が、「真正双子葉植物」には派生形質が

物の系統樹の中で最初に分岐した植物であることがわかると、世界中の研究者にとって注目度ナンバーワンの植物になった。被子植物の原始形質が残っているかもしれないからである。さまざまな研究が行われてきたなかで、特に胚嚢の研究は、他の「原始被子植物群」の胚嚢とともに注目されてきた。

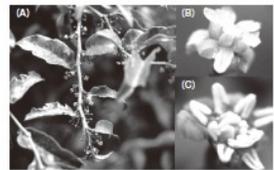


図4 生きた化石アンボレラ (Amborella trichopoda)  
(A) 4月半ば、ニューカレドニアで撮影した木、(B) 雄花、(C) 雌花。

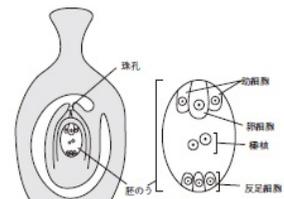


図5 被子植物の雌すいと7細胞8核の胚のう

